

## 使い方によっては「ステロイドは怖い」

弊社役員であった故小林正明さんの茨城県日立市大甕(おおみか)のお宅に招かれたことがある。

小林さんは、奥様と、近くの「茨城キリスト教大学」へ通うお嬢さんの3人家族。お嬢さんの加代子さんはご両親の良いところ取りで、色白の西洋的美人。例えて言うなら映画『ローマの休日』のオードリー・ヘプバーンを思わせる美女。小林さんの奥様も颯爽とした足の長い、彫りの深い「宝塚タイプ美人」、さっぱりとした性格のかたである。茨城県日立市大甕は奥様の実家。奥様の一族は、遠いご先祖に外国人の血でも入っているのか、皆さん足が長く彫りの深い方が多い。ご主人の小林正明さんは東京、四谷の武家の出で、お兄様はフランスで洋菓子のパティシエ修行をなさり「洋菓子業界団体」の理事をしていた。

だが、小林さんの奥様はお気の毒なことにお顔の顎から額にかけて墨で染めた薄紙を被せたように肌の色が網目状に黒くなっている。「普段はお化粧品で隠している」とのことだったが、外出する予定もなかつ

たので、すっぴん状態でいらっちゃった。それでも、よほど気になさっていたのか、何も聞かないうちに「これはお化粧品をする前の化粧下地に使った田辺のフルコートのせいなんですよ」と説明してくださった。

「フルコートを塗ってからお化粧品すると、化粧のノリがよい」ことを職場の先輩に教わり、「実際、体調が悪く、顔に赤み、痒み、小さなぶつぶつができていてもフルコートを塗って化粧をすれば化粧のノリもよく、お化粧品を落とす頃までには肌はきれいになっていた」という。

ある日、すっぴんの肌が妙に痒くてポリポリ掻いていたら止まらなくなり、ミミズ腫れになる。顔中が痒く、掻き崩してしまったら色素が沈着してしまったのだ、という。それからは会社にも出れず「体調不良」ということで、依頼退職。病名は「黒皮症」。皮膚科を何件も通うのだが治療法も分からない、という。

今思えば、アレルギー反応の一つなのでしょうね。

## メタボ予防で国民医療費が減らせる。

1900万円から4200万円。平均的な60歳、高脂血症、男性に投薬し、心筋梗塞たった1例を防ぐのに必要な薬剤費…高脂血症男性が心筋梗塞を起こす割合は10%、これが高脂血症薬の投与で6~8%に下がる。これは30~40人の人が薬を

飲んでようやく1人の命が守れることを意味する。

「高血圧やコレステロール値を下げる「メタボ対策」は薬代だけで年間1兆2500億円のビッグな市場になっている。